



しょうねん つよ だ おとうと な ごえ  
少年が強く抱きしめれば抱きしめるほど、弟の泣き声は  
おお  
大きくなるばかりです。

しょうねん とほう く  
少年は、途方に暮れました。

しょうねん め なみだ  
とうとう少年の目にも、涙があふれてきました。  
いちどあふれたしたなみだ し  
いちどあふれたした涙は、とまることを知りません。  
つくる ふく だ  
ふたりは、繕われないままの服をつかんで抱きあい、  
ちち はは ごえ な  
父をよび、母をよび、声をかぎりに泣きました。